

スタートカリキュラムって何だろう？

— 小学校入学前後のお子さんをもつ保護者の方へ —

茨城女子短期大学
保育科 助川 公継

1. 幼児期は、「土台づくり」の時期

- 安心、安全な環境、信頼関係を基盤として諸能力等が育っていく。
- 「遊びこむ」体験から自己調整をする力が育つ（**発達とかかわり**）
 - ・遊びから、言葉や数量、科学などの小学校での学びにつながる芽が生まれる。
 - ・遊ぶ過程で学んだことは、心に刻み込まれる。
（色、形、大小、数、量、空間認識、比較、順序、時、お金などの基礎概念など）
- 幼児期から小学校にかけては、「できること」よりも「やりたいこと」を！
例： 文字を教えるより、「伝えたい」気持ちを育てる。
ひらがなや漢字を書けるようにするより、保護者や先生とたくさん話すことで「語い」を増やすような取り組み。
- 幼稚園や保育園での活動
 - ・身の回りのことを、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」という5つの領域にわけ、体験させたい内容などを計画し、バランスよく育むことを目指している。また、領域の間で関連を持たせながら総合的に展開され、子どもは、体験を通して主体的に学んでいく。
- 小学校以降の土台として必要な力なども意識して！
例 ・語いをふやす ・数と量の対応に気づく ・自己調整をする力

2. いよいよ小学校 — 期待と不安 —

【環境が大きく変わるとき！】

子どもの気持ちと向き合い、「不安」などを共有することが大切！

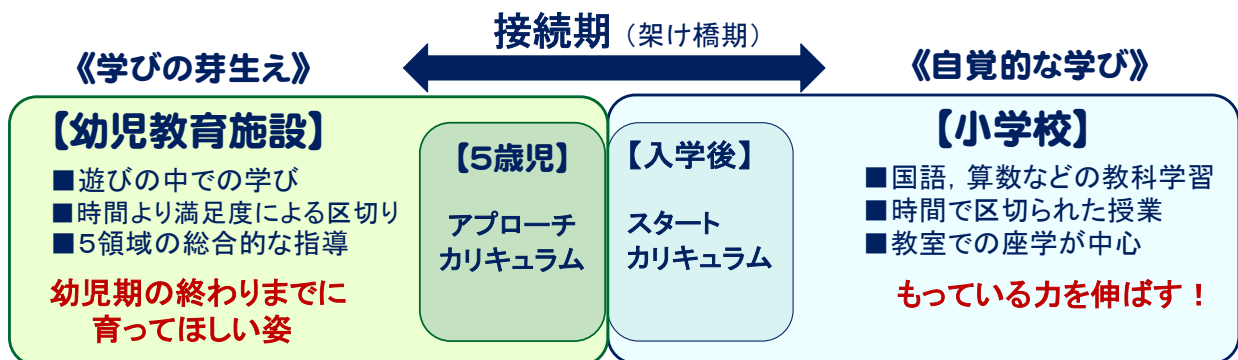


※ 子どもの気持ちの安定に最も重要なのは、親が不安にならないこと。

◆ 安心して小学校生活が始められるように…

※ 入学当初から、「スタートカリキュラム」という取り組みが、小学校ごとに実施されます！

- ・入学までの生活経験や学びを生かしながら、
- ・歌や遊びを取り入れた活動を行ったり
- ・生活科を中心に国語や算数などのいくつかの教科をあわせた形で行われます。



3. スタートカリキュラムでは…

| | 4月6日(月) | 4月7日(火) | 4月8日(水) |
|---|---|---|---|
| 朝 | | 荷物の片付け | 片付け・読み聞かせ ▲ |
| 1 | 学活 元気にあいさつ ・返事の仕方を学ぶ。 | 学活・国語 どうぞよろしく ・教室の使い方を 知る。 ・自分を知って もらうことも 知る。 | 国語 自分の名前をかこう ・正しい鉛筆の 持ち方と書く 姿勢を学ぶ。 |
| | 学校行事 入学式 | 学活・生活 学校のことを 知ろう ・トイレや手洗 い場、靴箱の 使い方を学ぶ。 | 算数・図工 なかまあつめ ・描いた作品が 仲間分けでき ることを知る。 |
| 3 | 学活 〇〇小の仲間入 り ・担任の名前を 知る。 ・友達を知る。 | 国語・図工 なかまづくりを しよう ・話の聞き方や 友達の呼び方 を学ぶ。 すきなものいっ ぱい ・絵の描き方を 学ぶ。 | 音楽(学年) みんなであた おう ・友達と楽しく 歌ったり手遊 びをしたりす ることで歌に 親しむ。 |
| | 11:30 下校 | 学活 たのしいきゅう しよく ・給食着の着替 え方や給食の 配膳の仕方を 学ぶ。 | 生活 学校をたんけん しよう ・廊下の歩き 方や特別教室 の使い方を学 ぶ。 |
| 5 | 学活 学校のことを 知ろう ・下校の仕方を 学ぶ。 | 学活 学校のことを 知ろう ・校歌を知る。 | |

幼児期に育まれてきた
「**幼児期の終わりまでに
育てほしい姿**」
を生かすよう取りんでいきます！



「園でやったことがある」(安心)
「それならできるよ」(自己の発揮)
「知ってるよ」、「いっしょにやろうよ！」
「自分でやってみるよ」(自立)

- ・ 10分や15分から、まず始めます！
- ・ 体験型・参加型のグループ学習や自主的に体験するような授業(ワークショップ型)
- ・ 主体性(その子らしさ)や意欲を大切に

◀ 茨城県保幼小接続カリキュラムから

「スタートカリキュラム」の内容や時間・期間は？

- スタートカリキュラムは、入学時から、ある程度生活に慣れるまで行われます。
 - ・ 地域や学校によっても違ってきます。約1か月のところもあれば、1学期の終わりまでと様々です。
 - ・ 入学当初は、いきなり小学校の生活になじませようとはせず、体育館などで体を動かしたり、経験したことのある遊びを行ったりすることを通して、緊張をほぐしたり、友だちや上級生と交流したりするなど人間関係づくりなどもします。
- 内容としては、1時間の授業は、生活科を中心に、国語や算数、音楽、体育等の枠を固定せず、他教科と絡めた学習(活動)内容になります。
- 時間としては、1時間の授業は45分間ですが、学習(活動)内容に応じて、生活科15分・国語30分のように、時間を組み立てていきます。
- 机と椅子での学習のみならず、体験的な活動などを取り入れながら徐々に慣れるように取り組んでいきます。

【参考】 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 <10の姿> (幼稚園教育要領より)

| 領域 | 10の項目 | 資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿 |
|------|--------------|---|
| 健康 | 健康な心と体 | 幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、 見通しをもって行動し 、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。 |
| 人間関係 | 自立心 | 身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、 自信をもって行動する ようになる。 |
| | 協同性 | 友達と関わる中で、 互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて 、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。 |
| | 道徳性・規範意識の芽生え | 友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、 相手の立場に立って行動する ようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、 自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら 、きまりをつくったり、守ったりするようになる。 |
| | 社会生活との関わり | 家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、 相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ 、地域に親しみをもつようになる。また、保育所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、 社会とのつながりなどを意識する ようになる。 |

※ 5歳児の終わり頃までにみられるような姿を表したものです。

| | 10の項目 | 資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿 |
|----|----------------------|---|
| 環境 | 思考力の芽生え | 身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、 多様な関わりを楽しむ ようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、 新しい考えを生み出す喜び を味わいながら、 自分の考えをよりよいものにする ようになる。 |
| | 自然との関わり・生命尊重 | 自然に触れて感動する体験を通して、 自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現 しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、 生命の不思議さや尊さ に気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。 |
| | 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 | 遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに 親しむ体験 を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの 必要感に基づきこれらを活用 し、興味や関心、感覚をもつようになる。 |
| 言語 | 言葉による伝え合い | 保育士等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを 言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし 、言葉による伝え合いを楽しむようになる。 |
| 表現 | 豊かな感性と表現 | 心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを 自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし 、 表現する喜び を味わい、意欲をもつようになる。 |

※ 10の姿は、幼稚園、保育所など幼児教育施設で共通しているものです。

※ 個人の発達によっても異なってきます。

※ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は到達目標でない。

4. 子どもの成長とともに親の成長も必要

○ 子どもに任せ、できることはさせ、自信をもたせる。

- ・子どもの行動を必要以上に制限したり、親が手や口を出し過ぎないように！
- ・入学をきっかけに友達と仲良くなったり、先生に勇気を出して話しかけることができたりと、子どもの成長につながることも多くある。
- ・環境の変化は、子どもの世界が広がるチャンス。少し遠くから見守る立場で！

○ 小学校に入学後の生活をシミュレーションしてみよう！

- (1) 小学校の始業の時刻は？
- (2) 学校の開門の時刻は？
- (3) 通学にかかる時間は？(家から学校までを実際に一緒に歩いて！)
- (4) 何時に家を出ればよいか？(集団登校をしている小学校もある。)
- (5) 着替え、支度、朝食にかかる時間は？
※ 前の晩に翌日の用意をしてから就寝する等、子どもと一緒に考えることが大切
- (7) 就寝時刻と起床時刻は？(睡眠時間はしっかりと。時間は逆算して！)

5. まとめ

- 環境が大きく変わる時期。安全基地があるから、子どもは挑戦でき、冒険できる。何かあったときに帰っていくところがあることが大切。

※ 安全基地…怖いとか不安なとき、特定の信頼する人にくっついて安心感が得られるところ

- 文字を教えるより、「伝えたい」気持ちを育てる。ひらがなや漢字を書けるようになるより、たくさん話すことで「語い」を増やすような取り組み。伝えたい気持ちが、文字や言葉を覚えることにつながる。読解力の基礎。
- 「遊びこむ」体験から自己調整をする力が育つ。小学校へ向けて育てたい力に、語い力や自己調整力等(集中力、忍耐力、挑戦力、思いやる等の非認知能力)がある。
- 生活に慣れるには、習慣づくりが大切。まずは「早寝、早起き、朝ごはん」から。
- ゆったりした中で、人間関係づくりを大切にしながら、体験を重視した学習がスタートカリキュラム。大勢の目で子どもを見守り、励まし、支援することが大切。